

腫瘍・診断病理学分野

A 欧文

A-a

1. Shibata K, Nakayama T, Hirakawa H, Hidaka S, Nagayasu T: Clinicopathological significance of angiopoietin-like protein 4 expression in oesophageal squamous cell carcinoma. *J Clin Pathol* 63: 1054-1058, 2010 (IF: 2.333)
2. Khan KN, Kitajima M, Hiraki K, Yamaguchi N, Katamine S, Matsuyama T, Nakashima M, Fujishita A, Ishimaru T, Masuzaki H: Escherichia coli contamination of menstrual blood and effect of bacterial endotoxin on endometriosis. *Fertil Steril* 94: 2860-2863, 2010 (IF: 3.970)
3. Khan KN, Kitajima M, Hiraki K, Fujishita A, Nakashima M, Ishimaru T, Masuzaki H: Cell proliferation effect of GnRH agonist on pathological lesions of women with endometriosis, adenomyosis and uterine myoma. *Hum Reprod* 25: 2878-2890, 2010 (IF: 3.859)
4. Suzuki K, Nakashima M, Yamashita S: Dynamics of ionizing radiation-induced DNA damage response in reconstituted three-dimensional human skin tissue. *Radiat Res* 174: 415-423, 2010 (IF: 2.948)
5. Hirakawa H, Shibata K, Ohzono E: Use of a semi-dry dot-blot for rapid detection of lymph node metastasis. *Clin Chim Acta* 411: 1149-1150, 2010 (IF: 2.535)
6. Matsuo-Matsuyama M, Nakashima M, Shichijo K, Okaichi K, Nakayama T, Sekine I: Basic fibroblast growth factor suppresses radiation-induced apoptosis and TP53 pathway in rat small intestine. *Radiat Res* 174: 52-61, 2010 (IF: 2.948)
7. Inoue N, Isomono H, Matsushima K, Hayashi T, Kunizaki M, Hidaka S, Machida H, Mitsutake N, Nanashima A, Takeshima F, Nakayama T, Ohtsuru A, Nakashima M, Nagayasu T, Yamashita S, Nakao K, Kohno S: Down-regulation of microRNA 10a expression in esophageal squamous cell carcinoma cells. *Oncol Lett* 1: 527-531, 2010 (IF: 1.588)
8. Nanashima A, Abo T, Tobinaga S, Kunizaki M, Hidaka S, Nonaka T, Miuma S, Taura N, Miyaaki H, Nakashima M, Sawai T, Nakao K, Nagayasu T: Relationship between period of survival and clinicopathological characteristics in patients with hepatocellular carcinoma who underwent hepatectomy. *Hepatogastroenterology* 57: 540-546, 2010 (IF: 0.669)
9. Yokomine T, Hirakawa H, Ozawa E, Shibata K, Nakayama T: Pulmonary thrombotic microangiopathy caused by gastric carcinoma. *J Clin Pathol* 63: 367-369, 2010 (IF: 2.333)
10. Dzodic R, Stanojevic B, Saenko V, Nakashima M, Markovic I, Pupic G, Buta M, Inic M, Rogounovitch T, Yamashita S: Intraductal papilloma of ectopic breast tissue in axillary lymph node of a patient with a previous intraductal papilloma of ipsilateral breast: a case report and review of the literature. *Diagn Pathol* 12; 5: 17, 2010 (IF: 1.299)
11. Horie I, Ando T, Inokuchi N, Mihara Y, Miura S, Imaizumi M, Usa T, Kinoshita N, Sekine I, Kamihara S, Eguchi K: First Japanese patient treated with parathyroid hormone peptide immunization for refractory hypercalcemia caused by metastatic parathyroid carcinoma. *Endocr J* 57: 287-292, 2010 (IF: 1.806)

A-b

1. Shichijo K, Ihara M, Miura S, Kurashige T, Matsuyama M, Nakashima M, Nakayama T, Sekine I: DNA damage response in aberrant crypt foci of radiation colitis as a anti-cancer barrier in early tumorigenesis. *Gastroenterol* 138 (Suppl.1): S-509, 2010 (IF: 12.899)

B 邦文

B-a

1. 七條和子, 高辻俊宏, 福本 学, 松山睦美, 中島正洋, 中山敏幸, 関根一郎: 長崎原爆被爆者の剖検・パラフィン標本を用いた残留放射能の検出法-その2-. *広島医学* 63: 265-266, 2010
2. 三浦史郎, 中島正洋, 蔵重智美, 塚崎邦弘, 岩永正子, 近藤久義, 横田賢一, 三根真理子, 山下俊一, 関根一郎: 長崎被爆者腫瘍組織バンク構築とその必要性. *広島医学* 63: 275-277, 2010
3. 七條和子, 高辻俊宏, 福本 学, 松山睦美, 中島正洋, 関根一郎: 長崎原爆被爆者の剖検・パラフィン標本を用いた残留放射能の検出法. *長崎医学会雑誌* 85: 292-293, 2010
4. 三浦史郎, 蔵重智美, 塚崎邦弘, 近藤久義, 横田賢一, 三根真理子, 宮崎泰司, 関根一郎, 中島正洋: 長崎被爆者腫瘍組織バンク構築に向けた生体試料収集の経過報告. *長崎医学会雑誌* 85: 294-297, 2010
5. 松山睦美, 中島正洋, 七條和子, 岡市協生, 中山敏幸, 関根一郎: TP53 経路を介した bFGF の小腸における放射線誘発アポトーシス抑制効果. *長崎医学会雑誌* 85: 307-310, 2010
6. 蔵重智美, 中島正洋, Saenko Vladimir, 鈴木啓司, 松山睦美, 七條和子, 山下俊一, 関根一郎: 成熟ラット甲状腺濾胞上皮の放射線感受性の検討. *広島医学* 63; 4: 324-326, 2010
7. 亀山大介, 陳 俊全, 三嶋亮介, 井上健一郎, 三浦史郎, 牧山和也: 直腸炎型の潰瘍性大腸炎にクラミジア直腸炎を併発した 1 例. *長崎医学会雑誌* 85: 30-36, 2010

B-d

1. 中島正洋: 原爆症に関する調査研究 共同研究課題 2: 原爆被爆者の免疫機能に関する研究 成熟甲状腺濾胞上皮での放射線感受性と晩発性ゲノム不安定性解析. 平成 21 年度厚生労働省委託事業 原爆症調査研究事業分担報告書 p59-65, 2010

学会発表数

A - a	A - b		B - a	B - b	
	シンポジウム	学会		シンポジウム	学会
0	1	3	0	0	23

社会活動

氏名・職	委員会等名	関係機関名
中島正洋・教授	評議員	日本内分泌病理学会
中島正洋・教授	非常勤研究員	(財)放射線影響研究所
中島正洋・教授	疫学部顧問	(財)放射線影響研究所
中島正洋・教授	原爆症に関する調査研究班班員	(財)日本公衆衛生協会
中島正洋・教授	幹事	日本臨床細胞学会長崎支部
中島正洋・教授	がん対策部会専門委員会(がん登録委員会)委員	長崎県保健医療対策協議会
中島正洋・教授	理事	(財)長崎原子爆弾被爆者対策協議会
七條和子・助教	評議員	日本実験潰瘍学会
七條和子・助教	評議員	日本薬理学会
七條和子・助教	評議員	日本自律神経学会
七條和子・助教	長崎原爆資料館運営協議会委員	長崎原爆資料館
三浦史郎・助教	平成22年度長崎県病理検査研修会	(社)長崎県臨床検査技師会

競争的研究資金獲得状況(共同研究を含む)

氏名・職	資金提供元	代表・分担	研究題目
中島正洋・教授	日本学術振興会	代表	基盤研究(C) 53BP1 核内フォーカスの普遍的腫瘍組織マーカーとしての意義解析
中島正洋・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究(C) 放射線誘発小児甲状腺がんの発生機序の解明
中島正洋・教授	日本公衆衛生協会	分担	原爆症に関する調査研究
中島正洋・教授	国立がん研究センター	分担	放射線への暴露による発がんの分子機構に関する研究
三浦史郎・助教	日本学術振興会	代表	若手研究(B) 53BP1 核内フォーカスを指標とした原爆被爆者組織におけるゲノム不安定性の検出

特許

氏名・職	特許権名称	出願年月日	取得年月日	番号
七條和子・助教	皮膚熱傷治療剤および表皮再生促進剤	2007年 2月28日		特願 2007-049534
平川 宏・助教	癌転移の検出方法および検出キット	2010年 2月22日		特願 2010-036515

その他

新聞等に掲載された活動

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
中島正洋・教授	二重被爆者・山口彊さんの死	毎日新聞	2010年 1月26日	「被爆者腫瘍組織バンク」は、バンクへの協力を希望する被爆者の遺体を無償で病理解剖することにした。遺体提供が増えれば、がん組織だけでなく、表皮や他の臓器などまで幅広く収集でき、研究の可能性も広がると期待する。
中島正洋・教授	被爆者がん研究 一般医療にも貢献	毎日新聞	2010年 2月9日	「被爆者腫瘍組織バンク」では、被爆者の貴重なデータを使わせてもらい、発がんのメカニズムを研究している。それが解明できれば、被爆者医療だけでなく、がんの早期発見や治療にもつながることを期待する。
中島正洋・教授	DNAの傷 光るタンパク でくっきり がん診断の 精度向上 長崎大原研 被爆者研究を応用	西日本新聞	2010年 4月7日	光るように処理したタンパク質を使ってDNAの傷を可視化し、がんに進行する可能性を判断する手法を開発した。被爆者研究の過程で確立した手法を応用した。がん診断の精度が高まり早期発見にもつながると期待される。
三浦史郎・助教	封印された原爆報告書	NHKスペシャル	2010年 8月6日	なぜ貴重な資料が、被爆者のために活かされることなく、長年、封印されていたのか？被爆から65年、初めて181冊の報告書全てを入手。調査に当たった関係者などへの取材から、その背後にある日米の知られざる思惑が浮かび上がった。

非常勤講師

氏名・職	委員会等名	関係機関名
中島正洋・教授	非常勤講師（病理学）	長崎市医師会看護専門学校
七條和子・助教	非常勤講師（病理学）	長崎女子短期大学
七條和子・助教	非常勤講師（病理学）	こころ医療福祉専門学校
三浦史郎・助教	非常勤講師（病理学）	こころ医療福祉専門学校